



## 東地中海地域ニュース

### シリア：対米関係・米上院議員の訪問

(2月18日現地各紙)

18日、ベンジャミン・カーディン米上院議員を代表とする米議員団がシリアを訪問した。概要以下のとおり。

#### 1. バッシャル大統領との会談

(1)カーディン議員を代表とする議員団が、バッシャル大統領と会談し、相互尊重と真剣な対話を通じたシリア・米関係の発展の必要性について協議した。また会談では、中東地域における和平普及への努力と強化及びテロ撲滅に関する話し合いも行われた。

(2)バッシャル大統領は、和平の実現こそが地域の安定に資することを強調し、米議員団も米・シリア間の対話の重要性を確認した。会談にはムアッリム外相、シャアバーン大統領政治・広報担当顧問、ムスタファ駐米シリア大使が同席した。

#### 2. カーディン米上院議員記者会見

(1)初めてシリアを訪問し、バッシャル大統領と会談ができて嬉しく思う。バッシャル大統領との会談では、中東和平、イラク難民問題及びテロ撲滅について協議した。バッシャル大統領は、これらの問題に確固たる意見を持っていた。

(2)我々は今回の協議を上院に報告する。報告は、中東地域に大きな関心を抱いているオバマ政権の見解に対して大きな影響を与えるだろう。和平の実現は、地域の安定にとって重要であり、両国間の良好な関係が樹立することを期待している。

(3)米政権が和平に向けた役割をどのように担うかについては、シリア・イスラエル両国が和平交渉を通じて前に進むよう措置を取ることが重要である。シリアはテロ組織を支持することを止めるべきである。シリアは、ハマスやイスラミック・ジハード等のテロ組織を支持したために自らを孤立させてしまった。またシリアとイランの関係は、厄介なものである。

(4)米・シリア関係が改善することを望むが、シリアは人権問題や表現の自由について見直しを行うべきである。我々の今回の訪問は、米国とシリアが関係を改善する上で、シリア側に前進する用意があるかどうかという問いを投げかけるものであった。今後ともシリアの動きを注視していきたい。